



mIRaI 通信

～輝く「未来」の中に「伊里」はある～

伊里学園支援地域協議会が文部科学省で表彰！



少し前、すばらしい嬉しいニュースが飛び込んできました。



伊里学園支援地域協議会が、〔平成28年度『地域学校協働活動』推進〕で、文部科学大臣より表彰を受ける、というものです。本当にすばらしい！

受賞理由は、地域の方々が「見守り」「授業支援」「放課後学習会」「環境整備」などの学校支援活動に積極的に取り組んでいること、同時に学校の児童・生徒も、地域の活動にボランティアとして意欲的に参加するなどの、双方向からの連携活動が評価されたということです。まさに、他地区への「模範」として認められたと言えるでしょう。

伊里地区としては、昨年「伊里公民館」が、その活動を認められ、同じく文部科学省より表彰を受けています。



やっと時代が伊里地区に追いついてきたのでしょうか（ドヤ顔）。

12月8日に、文部科学省において表彰式が行われ、代表として、伊里小学校の坪本校長先生が出席されました。

何はともあれ、大変おめでたいお話でした。おめでとうございます。今後ともよろしくお願ひいたします。



これも伊里中の誇れる日本一（推定）



ご覧くださいこのカバン！以前にも紹介したことはありますが、本当に毎日毎日ぶ厚いカバンを括りつけて登下校する姿には感心しまくりです。「すごいね」と声をかけると、「今日は5教科あったんで」と、さも当たり前のような答えが返ってきます。あまりの厚みに、風にあおられてコケないように、「気をつけて」と声をかける始末です（笑）。このカバンのお厚さ率も、日本一ではないでしょうか（当社比）。

ふと思いました、「徒歩通でもみんなこの厚みのカバンを持って歩いて来るだろうか…？」

「う～ん、ウチの生徒なら考えられる！」「そうすると、学校中が腕の筋肉ムキムキのマッチョボーイ、マッチョガールで溢れかえるなあ…」と、想像は海を越え山を越え、果てしなくどこまでも広がっていくのでした。「腕マッチョ率日本一の伊里中学校」…あまり考えたくないですね。

こちらも文部科学大臣が表彰してくれないかなあ…。あ、マッチョでなくカバンの方ですよ（笑）。

「税の作文」で2人表彰される



「税の作文」で、本校生徒2名が賞を受けることとなり、瀬戸税務署から、所長さんら2名の方が来校されて校長室で表彰状の伝達式を行いました。

2年B組柳川 龍騎君が「岡山県納税貯蓄組合連合会長賞」
3年A組藤原 智哉君が「瀬戸納税貯蓄組合連合会長賞」
を受賞しました。おめでとうございます。



自分の日常を綴るのではなく、「税」についての考えを書くわけですから、相応の知識と、生活に関連させていく想像力が必要となってきます。

学んだ知識を、自分の生活や将来と照らし合わせ、そこから得られた考えを文章として表現していく…これらはまさに、今言われている、これからの「学力」だと思います。

「表現」することは難しいですが、自分の想いや考えを人に伝えていくことは楽しくもあるものです。ぜひ「表現する楽しさ」をみんなに味わってほしいと思っています。



久しぶりにトイレボラ行きます



外トイレ工事のため、トイレ清掃ボランティアを休止していましたが、11日(日)の「なわとび・マラソン大会」に向け、仮設トイレ・図書室前トイレを中心に清掃を行うことになりました。寒くなってきましたが、お客様も来られますので、「おもてなし」の心でキレイに掃除しに来ませんか？お待ちしております。朝7時半より行きます。



冬来りなば・・・？



7日朝は、今季初めて車の窓ガラスが凍っていました。やっとなんて言うか、とうとう言うか、ついに冬の到来ですね。

しかし、そこはやはり昨今の天候、まったく予断を許しません。最近ではテニスコートの草削りを時間を見つけてはしていますが、8日の5時間目も30分ほど作業しただけで汗ビショリ。職員室に入ってからしばらくは、上着どころかセーターまで脱いで、カッターシャツも腕まくりして過ごすという、季節感もへったくれもない状態でした。この寒がりの私が…。

暖かい方が嬉しいとはいえ、それでもやはり冬は冬らしくあってほしいという、人間ってどこまでも勝手なものです。

そして「大雪」がやってきました。

二十四節気 大雪(たいせつ)

いよいよ本格的に雪が降り出す頃のことです。



初候「閉塞く冬と成る(そらさむくふゆとなる)」12月7日～11日頃

天地の陽気がふさがり、真冬が訪れる頃。重たい灰色の雲におおわれた空は雪曇(ゆきぐもり)と呼ばれます。